

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：東山 直正

事業名	地域高規格道路 四日市インターアクセス道路 一般国道477号四日市湯の山道路	事業区分	一般国道	事業主体	三重県
起終点	自：四日市市高角町 至：三重郡菟野町音羽	延長	9.0 km		
事業概要					
一般国道477号四日市湯の山道路は、地域高規格道路 四日市インターアクセス道路の一部を構成する道路であり、四日市市街地や東名阪自動車道と新名神高速道路を結ぶ東西方向のアクセス強化、現道の交通混雑の緩和、地域の活性化等を目的とした延長9.0 kmのバイパス整備事業である。					
H9年度事業化	H6年度、H7年度 都市計画決定	H9年度用地着手	H10年度工事着手		
全体事業費	約473億円	事業進捗率	99%	供用済延長	9.0 km
計画交通量	22,000台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) —	総費用 (残事業)/(事業全体) 7.2 / 651億円 事業費：3.6/647億円 維持管理費：3.5/3.5億円	総便益 (残事業)/(事業全体) —/1,291億円 走行時間短縮便益：—/1,196億円 走行費用減少便益：—/43億円 交通事故減少便益：—/52億円	基準年	平成30年
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C= 1.8~2.2 (交通量±10%)		(残事業) 交通量：B/C= — (交通量±10%)			
事業費：B/C= 2.0~2.0 (事業費±10%)		事業費：B/C= — (事業費±10%)			
事業期間：B/C= 2.0~2.0 (事業期間±20%)		事業期間：B/C= — (事業期間±20%)			
事業の効果等					
① 物流の効率化による生産性の向上					
・ 四日市港・四日市市街地と東名阪自動車道・新名神高速道路を連結し、アクセスが強化されることで移動時間が短縮され、物流の効率化による生産性の向上が期待される。					
② 沿道利用者の利便性向上					
・ 一般国道477号（現道区間）は、沿道開発が進んでおり、交通量が多く、慢性的な渋滞が発生しているが、バイパスを整備することで渋滞が緩和され、沿道利用者の利便性が向上される。					
③ 大規模災害時における復旧活動に寄与					
・ 東名阪自動車道や新名神高速道路などと一体的な緊急輸送網を構成し、広域的な災害復旧活動に貢献することが期待される。					
④ 観光地へのアクセス強化					
・ 湯の山温泉をはじめとする観光地へのアクセスが強化され、一層の観光振興が期待される。					
⑤ 菟野IC付近に大規模な工業系及び住宅系団地造成の計画					
・ 新名神高速道路や四日市湯の山道路の整備が進んだことで、菟野インターチェンジ周辺における工業系及び住宅系団地の開発に向け、菟野インター周辺地区土地区画整理組合設立準備会が設立された。					
関係する地方公共団体等の意見					
四日市インターアクセス道路整備促進期成同盟会、四日市商工会議所等で構成される「新名神促進北伊勢経済団体会議」及び菟野町商工会・菟野町観光協会などから、新名神高速道路等の整備とともに、渋滞緩和、地域ネットワークの構築、物流の効率化などの面から、四日市湯の山道路の早期供用開始を強く望まれていた。					
事業評価監視委員会の意見					
・ 事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
・ 関連事業である新名神高速道路が、平成31年3月17日に全線開通した。					
事業の進捗状況、残事業の内容等（平成30年度末）					
・ 平成30年10月27日に本線が全線開通した。残工事として、取付道路の一部改良工事や側道の舗装					

工事の整備を進める。

(用地取得率100%、事業進捗率99%)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・取付道路などの一部の残工事を完成させる。

施設の構造や工法の変更等

- ・橋梁構造を盛土構造へ変更し、コスト縮減を実施。

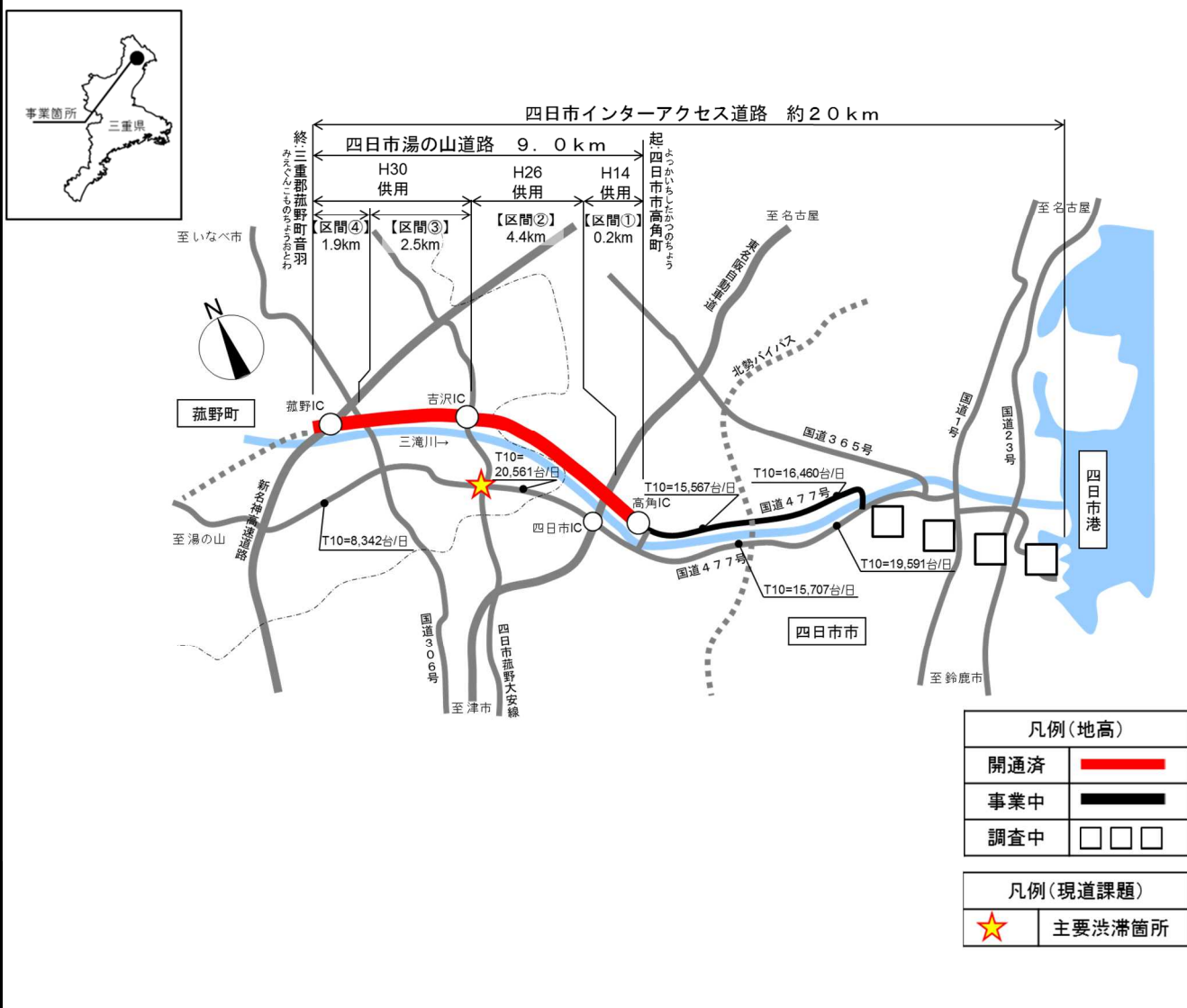
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。